

「志成」＝志有る者、事ついに成る＝



PTAだより 2019.3.1. Vol.101

本校
ホームページ

滋賀県立河瀬中学・高等学校PTA会報



学校中庭にて(高校3年生)

ゼロ・トゥ・ワン



PTA会長 辻 哲朗

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、卒業の門出を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、皆さんが生きる未来は、現在が元となります。今の学びの中から、視点を未来に向ける思考が、未来を創ることに繋がります。

電子マネーの草分けであるペイパルを創業したピーター・ティールは、未来を考える際、「0から1を生み出す」思考を唱えます。その元となるのは「水平的進歩」と「垂直的進歩」に分けて考えることです。日本の技術を他国へ展開することは水平的進歩ですが、パソコンからスマートフォンを創ることは、垂直的進歩となり、全ての垂直的進歩はテクノロジーだと定義しています。1からnを生む水平的進歩より、0から1を生む垂直的進歩に目を向けることが、未来への歩みになるでしょう。

皆さんには、未来へ視点を持ち、更に学びを深め、テクノロジーを進化させる人に成長されることを願います。

贈る言葉



校長 小椋 健一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子さまのご卒業、心よりお祝い申し上げます。また、保護者の皆様からいただきました、これまでのご支援・ご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

漱石の草枕の冒頭に「智に働けば角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかく人の世は住みにくい。」とあります。理論武装して相手を論破しすぎると思わぬ敵が生まれます。情にほだされると正しい判断が狂います。芯を強く持つことは大切ですが、意固地な人だと敬遠されることにもなります。人間が持つ対人バランスの大切さ、難しさをうまく表現しており、私自身大切にしている考えです。

人工知能が人間の仕事を奪ってしまうとの話があちらこちらで声高に語られていますが、「智情意」をうまく使いこなすという点では、AIはまだまだ人間には及びません。改めて、人間が持つ力に目を向けて、その力に磨きをかけてほしいと思います。新たな時代に生きる皆さんの今後に期待して、お祝いの言葉とします。



少し先にある可能性

教育振興会会長 **本田 真司**

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも重ねてお祝い申し上げます。本校で過ごした時間は、皆さんにとってどうだったでしょうか。部活動や勉強、荒人深修学旅行などすべてが思い出深い時間だったことでしょうか。一人でやり切ったこと、仲間とともに過ごし協力したこと、喜怒哀楽を繰り返した毎日によって皆さんは立派に成長されました。成長した今だからこそしっかりと目標を定め、自らの意志でスタートを切ってほしいと思います。

これからの皆さんは少しずつ責任を背負いながら、自分で考えていくことが多くなります。ダメな自分や壁にぶつかりながらもそれを乗り越えていく。答えを求めめるのではなく、自分で答えを探しにいく。うまくいかなければやり方を変えればよい。心が折れてもそれを戻す力があればいい。持ち合わせる最高のエネルギーを使って、ぎりぎり手を伸ばした先にある可能性を見つけ、掴み取ってくれることを大いに期待しています。

卒業によせて

PTA副会長(中学PTA会長)
上野早希子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

また、この良き日を迎えられたのも日々熱心にご指導して下さった先生方のおかげと深く感謝申し上げます。

3年間の中学校生活を終えて、4月にはまた新しい出会いが待っていることでしょうか。そこには少し自分とは話が合わないと感じることや、仲良くなりたいけれど声をかける勇気が出ないといったこともあるでしょう。

しかし社会に出たときにコミュニケーション能力は対応力となって必ず自分の役に立ちます。ですから、人との壁はつくらず、たくさんの人と関わりを持って欲しいと思います。

今後の皆さんの活躍を心より願っています。



一番大切なもの

中学3年学年主任 **元持 重子**



「人間にとって一番大切なものは何か」、答えは「へそ」だそうです。これは同朋大学、池田勇諦先生の言葉です。体の中心にあるからか、それとも、胎内で母親とへその緒で繋がっていたからか。池田先生は理由は言わず、最後に、「一度ゆっくりへそを見てみてください。」とおっしゃいました。その夜、お風呂でへそを見てみました。なぜなのか。その時思いました。頭が下がっている、へそを見るためには自然と頭が下がるのです。これなのかと思いました。頭を下げることは誰も好きではないと思います。自然と頭が下がる経験もめったにないかもしれません。学校という所は、頭を上げること、前かがむしゃらに進むことは教えても、下げることは教えてこなかったかもしれません。しかし、今になって思うのです。きつちり頭が下げられる人、自然と頭が下がる、そんな経験をした人こそが、本当の強さと優しさを持った人なのではないかと。

河瀬中学での3年間で君たちはどんな経験をし、そこから何を感じ、何を得たのでしょうか。人として一番大切なものは何か、それに気づいてくれていたらうれしいです。



仲間の存在

2018年度卒業生同窓会幹事 3年4組
藤田 恋風

私は、吹奏楽部に憧れ河瀬高校に入学しました。中学生の頃とは全く違い、家族よりも部員のみならず過ごす時間が長く、忙しくもあり充実した毎日を送ってきました。

8月に引退し、本格的に受験勉強に取り組みました。しかし、周りの友達との差に焦りを感じる毎日でした。けれど、それでも第一志望合格を実現できたのは、紛れもなく仲間の存在があったからです。部活で長い時間を共にし、不可能を可能に変えてきました。部活を通して友達が仲間になり、何でも話せる存在になりました。また、仲間の頑張っている姿が私の原動力となり、机に向かわせてくれました。

こんなにも大切な仲間に出会えたことは、私の一生の宝物です。部活動を共にしたこの仲間は、これから先別々の道を歩んでもきっと心の支えになってくれると信じています。



河瀬での六年間

2018年度卒業生同窓会幹事 3年6組
藤谷 俊希

私は中学校から、常に何かを追い続けた6年間だったと思います。高校受験をしない利点を活かし、高校生活の理想を追ったことがあります。その通りに過ごせたとは言えませんが、河瀬中学校での生活は豊かな高校生活を送る基礎となりました。

高校生となり、中学生の時より部活と学習の両立を意識するようになりました。その中で辛く、難しいことも多々ありました。しかし、嬉しいこと、楽しいことも同じくらいありました。高校に入って出会った高入生から今までに無い刺激を貰い新しい価値観を持つことができ、人として一回り大きくなれたように思います。

河瀬での6年間は僕の人生にかけがえのない経験を与えてくれました。この経験を糧に新たなステージに進みたいと思います。



高校3年 1組

祝卒業

高校3年学年主任/高校3年1組担任 **藤田 悦司**



保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日まで、ひたすらに注がれた愛情に対し、心から敬意を表しますとともに、3年間の本校教育活動に物心両面のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

3年1組の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年前、眼を輝かせて高校へ入学してきた皆さんの姿を昨日のこのように思います。本当にあっという間の高校生活でしたね。楽しかったこと、嬉しかったこと、辛かったこと、悲しかったことなど色々な思い出が皆さんを大きく成長させてくれました。特に学園祭では、体育祭競技、文化祭模擬店など4つの部門で1位を取り見事に総合優勝を遂げた時、クラスの団結力と皆のパワーをあらためて感じました。これから旅立つ皆さんにとって、この3年間の思い出は大切な財産になります。河瀬高校生として卒業できることを誇りにして下さい。

さて、いよいよ4月からは新しい生活が始まります。新生活に期待しながら不安なこともあるでしょう。江戸幕末の教育者である吉田松陰の言葉を紹介します。『夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。』皆さんが、高い志を持ち、夢の実現に向けて、充実した人生を送られることを期待しています。

最後に、皆さんがここに存在できるのは決して自分一人の力だけではありません。家族、地域の方々、友達、先生など様々な人との出会いや関わりがあったからこそです。河瀬高校での思い出を胸に秘め力強く旅立って下さい。



高校3年 2組

「センセイ」はえらい

高校3年2組担任 **道分 元樹**



「ロダンが、考える人を作るとき、男に本など持たせなかった。このことに心せよ」と小林秀雄は言っています。考える人の沈黙が示すのは、精神の独立というものの明確な姿です。本などには頼らない。ということは、その本を誉めそやす世間にも、学校にも頼らないということです。しかも、この男が座っているところは、地獄の門の阿鼻叫喚のただなかになります。

では、本を読みながら歩くセメント製金次郎は、考える人に比べて分が悪いでしょうか。彫像としては、言うまでもありません。しかし、彼の「考えているのではなく、一心に学んでいる」という姿には、いつも魅了されてしまいます。金次郎は地獄の門にいるのではなく、昼も夜も農作業に取り組む生活の中にいます。彼を見ていると、学問というのは、「具体的な生活の中に立てられる一つの志」、「もっとよく生きようとする生活者の志」のように感じます。誰もが考える人になるのは難しいと思いますが、金次郎のように働き、学び、問うことは、志一つで誰にでもできるのではないのでしょうか。

最近では、教育の場において思考力が問われ、ディスカッションを行う機会が増えてきました。しかし、ある人が、人生の中で本当に考え、学んだことは、みな口には出し難いものです。仲間を言い負かすことに自信を持ち、学をひけらかす理屈屋ほど、滑稽なものはいません。皆さんが倫理で習ったプラトンの『対話篇』や孔子の『論語』に出ている対話などは「思考力をつけよう!」とかいう楽しいような訓練とは異なり、精神の荒野で、他人と生きることを覚悟し切った人たちの言葉の力そのものです。その力が見えるのは書物の言葉によって以外にはないと私の場合は考えています。二宮金次郎が熟読していた書物もまた孔子の弟子曾参作『大学』でした。

学びは、「畏怖」や「讃仰」のないところには成り立ちません。現代において学校の先生がその対象と成りうる場合は、いうも愚かですが、稀少となりました。だからこそ、私たちは古典や書物から学ぼうとしてきたのではないのでしょうか。これからあなた方が多くのことを知ることも大切でしょう。しかし、もっと大切なのは、知るべきものへのしっかりとした尊敬です。「とにかく古典から学べ!」とは言いませんが、君たちが自律した人生を送っていれば、いざれ畏れを抱くような善き師匠(センセイ)に出会うはずですよ。いつか怒鳴る大工棟梁の鉋の削り屑を見て、ぞっとするような経験をして欲しいものです。師匠や鉋もなければ削るべき木もない人生にならないことを祈っています。高校を卒業しても、考え学び続ける人であって下さい。



高校3年
3組

「まだ考えていません。」それはとても贅沢な解答。

高校3年3組担任 久保川剛宏



ぐるぐるぐるぐるぐるぐる。朝が来る。まずはNHK教育をオン！ラジオ体操からの日本語で遊ぼう！小さな姐己と日野富子がTVに夢中になっている隙に洗濯物干しと朝食準備。朝食をとりながら英語で遊ぼう！を見つつ高校生の時には必要性を微塵も感じなかった発音練習。え！appleとanimalのaは同じ発音だったの！？濱川先生に報告しないと！洗い物して歯磨きさせて、ドタバタ出勤。いつもの目印の青いadidasのリュックが関西アーバン銀行を越えているとヤバイ。そうだ、adidasもappleと同じなのか濱川先生に質問しないと――。

地球を周回する人工衛星は、地球と人工衛星の間にはたらく万有引力を向心力として回っている。人工衛星自体に推力があるわけではない。個人的には最初に万有引力の式を習って、近似するとmghになるんだよーって習いたかった。重力の鎖を断ち切るためには約11.2km/秒の速度が必要だ。さらに太陽の鎖を断ち切るためには約16.7km/秒が必要とされる。1977年に打ち上げられたボイジャー1号は2012年に、ボイジャー2号は2018年に太陽系から脱出した。2025年には原子力電池の出力低下に従い稼働を停止する予定だ。より遠くまで到達できるようにスイングバイという技術を用いている。何にせよ衛星軌道を脱出するには莫大なエネルギーが必要である。

人生は様々なものに喩えられる。道、レール、川、浮草や白いキャンパス、ときにはバスケット缶やチョコレート箱にさえも。私は航海に喩えるのが一番すわりが良い。

「あなたは今や衛星軌道を脱出したデブリと同じ。ただ、違うのは行き先を自分で決めることができ、大気圏に突入しても燃え尽きない。」

「ねえ？教えて？次の星に着いたらあなたはどうしたいの？」



高校3年
4組

言うことを聞かない

高校3年4組担任 原田 裕



皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。

3年間終わってみて率直に感想を言うと、皆さんはあまり「言うことを聞かない」生徒でした。悪い意味ではありません。確かに「言うことを聞く」ことは大

切かもしれません。しかし、自分で物事を考えず、自分の意志を持って行動していないとも言えます。そういう意味で、皆さんは3年間本当に一生懸命に考え、一生懸命に自分の意志を持って行動してくれたなあと思います。その強い思いが、高校生活最後の大会や、学園祭や、受験で発揮されたのではないのでしょうか。

これからの人生はとても長い。進学すれば1年生からやり直し、働き始めれば1年目から始まり、新しいことを始めればそのたびに初心者からやり直し。その先々には、先輩と呼ばれる人や、上司と呼ばれる人や、先生と呼ばれる人が必ずいて、幾度となく「～しなさい。」とか、「～ができないからダメなんだ。」などと言われることもあるでしょう。人生の先輩が言っていることが正しいこともあるでしょう。でも忘れないで下さい。あれこれ何を

言われたとしても、自分の人生を生きているのは、あなたです。「～しなさい」と言われてやったことに対して責任を取るのもあなたです。誰も自分の人生の責任を肩代わりしてくれない人はいません。だったら、成功しても失敗しても、自分が納得できる選択をしよう。人が言うことが正しいとは限らない。もしくは、正しい選択があるとも限らない。皆さんには、自分で考える力、自分で選択する力、自分で実行する力、自分で責任を取る力が備わっています。その力を信じて頑張ってください。

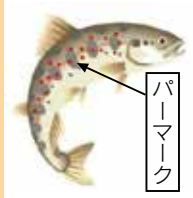
皆さんの今後の活躍を期待しています。3年間、ありがとう。お体に気をつけて。



高校3年
5組

アマゴからサツキマスへ

高校3年5組担任 久保田秀和



春の訪れと共に全国の河川で渓流釣りが解禁され、太公望たちが川へと繰り出す(私も以前はその一人)。対象魚はアマゴ・ヤマメ・イワナである。アマゴ・ヤマメは「溪流の女王」ともいわれ、高級魚として名高く、美しい流線型の魚形とパーマークと呼ばれる斑紋が釣り人を川へと誘う。

さて、この三種の魚には面白い性質があるので紹介する。これらの魚には河川型(ダムや湖などに封じ込められたため河川やダム、湖で一生涯を終えるもの(陸封型ともいう))と降海型(生後暫くは河川にとどまるが、その後海に下りまた元の川に遡上するもの)がある。降海型をそれぞれアマゴはサツキマス、ヤマメはサクラマス、イワナはアメマスといい、風貌、体長が一変する。風貌はパーマークが消えギンケ(サケに似た風貌に変化)し、体高が伸び、体長は30cmが60cmとなりどう見ても別種の魚である。しかし、遺伝学的には何の差もない同種の魚であり、環境(餌、水温、水流、塩分等)が魚を別物に変えてしまう。

このことは、これから人生を歩む皆さんにも当てはまる。皆さんは今河川型から降海型へと

移行しようとしている。準義務教育の12年間を将に河川型の生活であった。しかし、今日からは降海型へのスタートである。弱々しい体や心から強く逞しい身体と精神力に生まれ変わる。全く同じ人間が環境によって大きく成長した自分へと変貌する。ぬるま湯に浸かることなく、アドバイスという餌を一杯食べ、与えられた環境で自己を精一杯磨けば、肉体的、精神的に二倍、三倍に成長する。

私は、このことを卒業後、本校に訪れる先輩たちに感じる。在校時には考えられない程の成長した姿を見せてくれる。環境と自覚が人を変えるのである。卒業生全員がアマゴからサツキマスに成長することを心から願う。さようなら。お元気で。



高校3年
6組

無限の樹形図の根

高校3年6組担任 内田 紘人



みなさんが社会に出てから、しようと思うことは何ですか? 「そんなこと、まだ考えられないなあ」と思っているあなたへ2つだけ、私の想いをお伝えします。

まずは、次の4つの観点から、あなたがすることを考えて欲しいということです。好きなこと・得意なこと・社会から求められていること・お金になること

このどれかにあてはまっていることなら、まず自分が決めたことに一生懸命取り組んで欲しいと思います。2つあてはまれば素晴らしい、3つにあてはまったらそれは非常にあなたに合っていることでしょう。そして、4つ全てにあてはまることは、あなたの一生をやるべきことです。それを人は生きがいと呼ぶかもしれません。そんなことを丁寧に探してください。

もう1つ、みなさんに「無限の樹形図の根となれ」という言葉を贈ります。無限の樹形図の根という考え方は、『最上の命医』という漫画・ドラマで登場するものです。作中では、「医師が目の前の命を救うことで、その先にある無限の未来の仲間や子孫たち、つまり無限の樹形図の先にいる人々も救っているのだ」という趣旨で語られています。しかし、これは医者のみならず、どんな人にも言えることではないでしょうか。あなたの目の前にいる身近な誰かを幸せにしたり、自分の大切にしている想いや考え方が誰かの心に響いたり、優しい気遣いをしたりと、いった前向きな出来事は、周りにどんどん伝わっていつか社会に大きな影響を与えるでしょう。みなさんには、その大切な1本の樹の根となって活躍して欲しいと願っています。

大切に育てたいと願う樹の種類は、人それぞれ違うと思いますが、その樹はどんな形に育ったとしても強い想いの発現となって美しい枝を伸ばすでしょう。あなたが考える、より良い世界の実現のために、コツコツと水分や栄養を与え、そして時には休んだり周りの人たちとのきずなを支えてもらいながら、素敵な樹を育ててください。

卒業おめでとう。



中学3年 1組

目標は丸みのある△

中学3年1組担任 高山 淳子



つらい境遇に置かれると、誰かをつかまえて愚痴の一つもこぼしたくなるものです。別に解決の手助けをしてくれなくても、聞いてもらえるだけで気持ちがつきりすることってありますよね。でもそれも問題によりけりで、ヘタにすっきりさせると、かえってエネルギーが削がれることになるので要注意でしょう。

プロ野球の生みの親といわれる正力松太郎氏は、人前で決して愚痴をこぼさなかった人だそうで、「愚痴の愚はバカということで、痴は知識が病気になることである。そんなつまらぬものをこぼして、この人生どうして有意義にわたれようか。」という言葉を残しています。

私は、この言葉を思い出すたび「愚痴るまい、愚痴るまい。」と自分に言い聞かせます。だから高山先生はちっとも愚痴をこぼさないのか! …というとなかなかそういう訳にはいきません。まだまだ未熟です。ただ、意識をすることで、確実にブレーキになっているように思います。人生○か×のどちらかではなく△もあって、でもその△がふくらみのある△になるよう努力していきたいと思っています。卒業生のみならず、3年間で培った「ポジティブ・シンキング」の精神を大切に、互いにファイトが出るような発信をしつつ、輝かしい未来を築いていってくださいね。卒業おめでとう!



中学3年 2組

卒業おめでとう!

中学3年2組担任 葛川 星斗



河瀬中学校での3年間はどうか。私は、今年度から河瀬中学校に赴任して、驚いたことが2つあります。1つ目は、みんなの自主性です。学園祭では、CHU演の振り付けや劇の脚本などをみんな自身が考え、実行し、改善する姿が本当に素晴らしかったです。2つ目は、将来を見据えた進路学習です。大学訪問やアカデミックプログラムを通して、多くの学問に触れることができたのは、きっとみんなの人生の指針になっていると思います。河瀬中学校でのすべての経験が、次の高校生というステップで頑張るための糧になっているはずです。

さあ、いよいよ義務教育の期間を終えて、これからは、自分の足で歩いていかなければいけません。挑戦することで、まだまだ多くのことを学べるでしょう。空高く舞い上がる凧のように、広い世界へ飛び立つのです。でも、忘れてはいけないのは、どれだけ空高く舞い上がった凧でも、必ず地上で凧糸をギュッと握りしめてくれる人がいるということです。これから先、みんなの未来は順風満帆で良いことばかりではないでしょう。世界が広がる分、今まで想像もしなかった困難が待ち受けているかもしれません。しかし、あなたには、支えてくれる家族がいます。どんな嵐がきても、決して凧糸を離すことなく、みんなの成長を見守ってくれる家族がいるのです。自分の力で歩みつつも、絶対に感謝の心を忘れてはいけませんよ。もちろん先生たちも、全力でサポートします。

新しい世界へ旅立つ第14期生に幸あれ!



高P連湖東ブロック研修連絡協議会で本校のPTA活動を紹介

去る平成30年12月1日(土)、県立彦根翔西館高等学校にて「平成30年度滋賀県公立高等学校PTA連合会湖東ブロック研修連絡協議会」が開催されました。今回の協議会では、本校のPTAが活動について発表するよう依頼を受けていました。辻哲朗会長が、吹奏楽部の演奏の動画や生徒たちの学校生活の様子がわかる写真を効果的に活用し、楽しくわかりやすいプレゼンテーションを行いました。

また、この連絡協議会では、びわこ成蹊スポーツ大学の武田哲子准教授を講師にお招きし、「元気な大人になるための高校生で身につけたい健康食生活」と題した講演会も開催されました。勉強や部活動に頑張る子どもたちの健やかな成長をサポートするために、どのような工夫や配慮ができるかを実践的に学ぶことが出来ました。



平成30年度オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業に係るアスリート招聘事業講演会「夢を持つこと」

去る平成30年12月20日(木)、車いすバスケットボール選手の北田千尋さんにご来校いただき、中学生の全学年を対象に、講演会を開きました。

実際のバスケットボール競技用の車いすでのプレーの実演や、「ともに生きる」と題した講演などを通して、「夢をもつということ」、「自分とは違う人を受け入れるということ」、「失敗を恐れなくて挑戦するということ」の大切さを生徒たちに伝えてくださいました。

生徒からは「自分の気持ちと努力次第で何でも変えられるということに勇気づけられた。」「今までは車椅子の人を見て『大変そう』と思っていたが、今回の話を聞いて『楽しそう』と思うようになった。』などの感想がよせられました。

自分の生き方を探るうえで、今行動できることを考え、広い視野に目を向けていくことの大切さについて学ぶ良い機会となりました。



進路実現へ向けて

去る平成31年1月19日(土)、20日(日)の2日間、大学入試センター試験が全国各地の会場で実施されました。受験生は、1日目に地歴公民、国語、外国語、2日目は数学、理科に挑みました。

本校でも、162人の3年生が大学入試センター試験に挑みました。滋賀県立大学会場での受験となった当日、寒さの厳しい日となりましたが、緊張した面持ちながらも、応援に駆けつけた先生方と元気に挨拶を交わす生徒の様子が見られました。



受験を控えた生徒たちは放課後に加え、土曜日、日曜日の自習のための教室開放(サポート教室)にも多く参加していました。休日にも学校へ通い、それぞれが集中して取り組める環境の中で時には教え合い、励まし合っていたようです。

3月12日(火)からは、各地で国立大学の後期試験が始まります。長かった受験生としての生活もいよいよゴールが見えてきました。受験を控えている生徒のみなさんは、最後まで全力で希望する進路へ向けて、突き進んでください。これまでの皆さんの努力が素晴らしい成果となって花開くことを願っています。



PTAだより vol.101

2019.3.1.(金)発行

滋賀県彦根市川瀬馬場町975

滋賀県立河瀬

中学校・高等学校

TEL 0749-25-2200

FAX 0749-28-2935

<http://www.kawase-h.shiga-ec.ed.jp>